

令和 6 年 度

第62回 越馬徳治科学賞 表彰状授与及び助成金交付式

日 時 令和 7 年 2 月 12 日 (水)

13:30 ~ 14:30

式 場 石川県教員総合研修センター大研修室

式 次 第

- 1 開式のことば
- 2 表彰状及び記念品等授与
個人表彰
功 労 者 表 彰
学 校 表 彰
- 3 助成金交付
学 校 助 成
研 究 機 関 助 成
研 究 奨 励
- 4 あいさつ
石川県科学教育振興会会長 高 納 伸 宏
- 5 来賓祝辞
石川県教育委員会教育長 北 野 喜 樹
- 6 受賞者代表謝辞
- 7 閉式のことば

主催 石 川 県 科 学 教 育 振 興 会

共催 石 川 県 教 育 委 員 会

受賞者等の紹介

1 個人表彰

金沢市立十一屋小学校 教諭 山内 一良

金沢市立西南部小学校を初任に、同明成小学校、野々市市立御園小学校を経て現在に至る。研究面では、ソニー子ども科学教育プログラムへの論文応募や石川県理科教育研究大会輪島・鳳珠・珠洲大会で発表の実績がある。指導面では、理科担当教員として、児童生徒科学作品展の出品啓発と指導にあたりとともに、金沢子ども科学財団児童科学教室及び子ども科学スタジオの指導員を務めた。また、「理科の学習」編集委員、金沢市小学校教育研究会理科部会幹事、石川県理科教育研究協議会幹事を務めるなど、理科教育の振興に貢献している。

加賀市立片山津中学校 教諭 北濱 康裕

小松市立板津中学校を初任に、加賀市立錦城中学校を経て現在に至る。研究面では、AI時代教育論文誌、茨城大学教育実践研究での研究論文や石川県教育工学研究会での研究紀要など多数の執筆があり、石川県理科教育研究大会加賀大会で発表の実績がある。指導面では、科学部担当教員として、石川県中学生サイエンスチャレンジへの参加啓発と生徒への指導にあたりとともに、小松市「宇宙の学校」の講師を務めた。また、加賀市学校教育会中学校理科研究部会部長、石川県教育工学研究会研究委員を務めるなど、理科教育の振興に貢献している。

石川県立金沢泉丘高等学校 教諭 井川 健太

石川県立金沢向陽高等学校を初任に、同小松明峰高等学校を経て現在に至る。研究面では、越馬徳治科学教育研究奨励の応募、公益財団法人武田科学振興財団「中学校・高等学校理科教育振興助成」の交付、全国理科教育研究大会石川大会における研究協議意見提示、北信越理科教育研究会及び石川県理科教育研究大会で発表の実績がある。指導面では、スーパーサイエンス部顧問として、科学の甲子園全国大会において参加生徒の指導にあたり、総合第9位へと導いた。また、石川県高等学校教育研究会理化部会事務局長及び理事、日本理化学協会理事を務めるなど、理科教育の振興に貢献している。

2 功労者表彰

金沢市立犀桜小学校 教頭 江藤 里佳

金沢市立千坂小学校を初任に、同米泉小学校、金沢大学教育学部附属小学校、金沢市立明成小学校、金沢市教育委員会教育プラザ研修相談センター指導主事、金沢市教育委員会事務局学校指導課主任指導主事を経て現在に至る。研究面では、全国小学校理科研究大会石川大会における研究授業や金沢女性理科研究会で研究授業を実施するなどの実績がある。指導面では、金沢市少年少女発明クラブの指導員として、児童への指導にあたった。また、理科・生活科担当指導主事として、理科教育に関する指導・助言にあたるなど、理科教育の推進に貢献している。

能登町立能都中学校 校長 三井 松夫

能登町立能都中学校を初任に、石川県教育センター研修生（内地留学）、能登町立能都中学校、柳田村立柳田中学校、輪島市立南志見中学校、能登町立鶴川中学校、奥能登教育事務所指導主事、能登町立鶴川中学校教頭、能登町教育委員会事務局次長、能登町立松波中学校校長を経て現在に至る。研究面では、「優れた小中学校理科授業構成要素に関する授業ビデオ分析とその教師教育への適用」（国立教育政策研究所）の授業研究協力者を務めた実績がある。指導面では、理科担当指導主事として、理科教育に関する指導・助言にあたった。また、鳳珠郡学校教育研究会理科部会の部長を務めるなど、理科教育の推進に貢献している。

石川県立小松工業高等学校 校 長 室 田 昌 一

石川県立金沢二水高等学校を初任に、同鶴来高等学校、同野々市明倫高等学校、石川県教育センター指導主事、石川県教育委員会事務局学校指導課指導主事、同主任指導主事、同課長補佐、石川県立小松高等学校教頭、同野々市明倫高等学校副校長、同工業高等学校副校長を経て現在に至る。貢献面では、理科担当指導主事として、いしかわ高校科学グランプリの運営に携わるとともに、石川県理科教育研究大会では助言者を務めた。また、石川県高等学校教育研究会理化部会実験書検討委員会委員、石川県理科教育研究協議会幹事及び参与、石川県科学教育振興会常任幹事を務めるなど、理科教育の推進に貢献している。

3 学 校 表 彰

金 沢 市 立 三 馬 小 学 校

(校長 井 表 照 雄)

当该校は、理科の指導法について、熱心に研究する教員が多く、令和4年度は3～6年生の全ての学年で理科の研究授業を行い、令和5年度には理科で全体研究授業が実施されるなど、職員全員で理科に関しての研鑽を深めている。理科室や理科室前の廊下には、科学ニュースの記事や児童のノートを掲示するなど、理科への興味・関心を高める工夫をしており、休み時間には興味深く読んでいる児童の姿が見られる。また、5年生の総合的な学習の時間では、「考えよう三馬の環境」をテーマに、環境学習に取り組んでいる。伏見川の実地調査を通して、自然と人間が共存していくことの必要性や大切さについて考えを深めている。毎年、夏休休業中には多くの児童が科学研究に取り組み、石川県児童・生徒科学作品コンクールに出品した作品は、学年問わず優秀な成績を収めている。

石 川 県 立 金 沢 錦 丘 中 学 校

(校長 嶋 耕 二)

当该校は、平成16年4月に開校した併設型中高一貫教育校である。開校時より、石川県立金沢錦丘高等学校理科部会と合同の教科部会をもち、6年間の系統性及びキャリア形成を踏まえた科学教育を行っている。平成21年度には、中高理科部会合同の研究で、公益財団法人東京海上日動教育振興基金の教育研究助成を受けている。また、第54回石川県理科教育研究大会金沢大会では、会場校として、金沢市立富樫小学校、石川県立金沢錦丘高等学校とともに、公開授業を行った。その後も、中学校教諭及び高等学校教諭が連携し、越馬徳治科学教育研究奨励に応募するなど、科学教育の充実に向けた研究を行っている。特に近年は、中学校教諭が越馬徳治科学教育研究奨励に多く応募している。

また、石川県児童・生徒科学作品コンクールや高峰賞などで、多くの受賞者を輩出している。

金 沢 高 等 学 校

(校長 杉 浦 外美夫)

当该校は、進路希望に応じてS・特進・進学コースの3コース制をとっており、2年次より理系・文系に分かれている。科学部はコース、理系・文系の枠にとられず、さまざまな生徒が所属しており、科学を楽しむ姿勢を育成する伝統と環境がある。理科が苦手な生徒や文系の生徒であっても生き生きと探究、研究活動に没頭している。毎年、フィールドワーク「犀川の砂金採り」を専門家と共に実施するなど、年間を通して活発に活動を行っている。また、少なくとも過去25年以上にわたり、石川県中学・高校生徒化学研究発表会で研究成果を発表している。この10年で20題を超える独創性に溢れた興味深い発表を行ってきた。特に近年は独創性と探究力が高く評価され、全国高等学校総合文化祭自然科学部門で発表を行っている。

4 学 校 助 成

金 沢 市 立 森 山 町 小 学 校

(校長 佐南谷 弥 生)

金 沢 市 立 鳴 和 中 学 校

(校長 森 中 静 恵)

石 川 県 立 金 沢 桜 丘 高 等 学 校

(校長 梅 本 浩 照)

令和7年度に金沢市で開催する、第62回石川県理科教育研究大会の公開授業担当校として、小・中・高等学校をつなぐ理科教育を積極的に推進している。

5 研究機関助成

石川県教員総合研修センター

(所長 杉 中 達 夫)

科学教育の充実に向け、科学教育担当教員の指導力・実験力向上のための研修を実施し、科学教育の振興・発展に努めている。

6 研究奨励（※は研究代表者）

子どもが創る理科 ～関わり合い、追究する子を目指して～

金 沢 市 立 泉 小 学 校 主幹教諭 室木 千恵子*
かほく市立外日角小学校 教諭 川口 外美

小学校理科における複線型で対話的な単元デザインの授業実践

中能登町立鹿島小学校 教諭 佐原 友郎

生徒が自己有用感を感じるメディアを活用した中学理科の授業づくり

石川県立金沢錦丘中学校 教諭 中川 絢太*
石川県立金沢錦丘中学校 教諭 田中 祐介
石川県立金沢錦丘中学校 校長 嶋 耕二

高校物理におけるポータルサイトを活用した学習支援

石川県立小松高等学校 教諭 横川 和也

一人一台端末を活用した分子の形の指導法に関する研究

石川県立金沢泉丘高等学校 教諭 来間 祐一

個別配付型シミュレータとその学習効果

石川県立小松商業高等学校 教諭 小谷 拓太郎

オンデマンド動画による研究発表を行っています。研究発表動画は、石川県教員総合研修センターWebページ(科学教育関係)から視聴することができます。



越馬徳治科学賞について

1 趣旨

越馬徳治科学賞は、昭和38年、石川県科学教育振興会の発足と同時に、優れた理科教員を顕彰し、併せて本県科学教育の振興を期して、故越馬徳治会長の寄付を基金として設立された賞である。

発足当初、小・中・高等学校において指導実績に優れ、研究業績も顕著にして少壮有為な理科担当教員を対象として表彰していたが、昭和59年度より児童・生徒の科学活動にすぐれた成果をあげた学校の表彰並びに科学教育の振興を図り実践している学校・研究所等への助成金交付が加えられた。さらに、平成元年度より理科教育の推進に功労のあった教員の表彰が加えられ現在に至っている。

2 表彰・助成・奨励

- (1) 理科教育の振興に努力し、その進展に顕著な業績をあげた教員の表彰
- (2) 理科教育の推進に功績のあった教員の表彰
- (3) 児童・生徒の科学研究活動にすぐれた成果をあげた学校の表彰
- (4) 小・中・高をつなぐ理科教育を積極的に推進している学校への助成
- (5) 科学教育に関する研究所等への助成
- (6) 科学教育担当教員の研究並びに教育機関に属する個人及びグループの研究への奨励

3 過去の教員表彰者数

上記(1)・(2)について令和6年度を含めた総数は、450名に上る。

その内訳は、小学校177名、中学校142名、高等学校131名である。